

第2章 基本目標と将来像

1	基本理念	22
2	基本目標	23
3	将来像	23

1 基本理念

「参加・協働・創造」によるむらづくり

村では現行の基本構想の中で、『「参加・協働・創造」による村づくり』を基本理念として村勢発展に努めてきました。

むらづくりを推進していくためには、村民や議会、行政等とがその基本的な考え方について共通認識のもとに、それぞれの役割分担の中で協働していくことが必要です。

また、平成22年4月には「協働のむらづくり基本条例」を施行し、むらづくりに関する基本原則を定めるとともに、協働による住民自治を推進することによって生き生きとした地域社会の実現を目指しています。

「参加」は、地域づくりに主体的に参加すること

「協働」は、協力しあい、ともに行動すること

「創造」は、新しいものを自らつくり出すこと

むらづくりは、地域住民が主体となって取り組むことが基本であり、協働のむらづくりを推進している本村にとって的を射た表現であるとともに、時代の求めにも沿っているものと考えます。

また、「村づくり」という表記は田野畑村という大きなくりでのイメージが強いことから、自治協議会や集落、あるいはもっと小さな単位でのコミュニティによる取り組みもイメージさせるため「むらづくり」と平仮名での表記にあらためます。

よって新しい基本構想では『「参加・協働・創造」によるむらづくり』を基本理念として設定します。



2 基本目標

本村を取り巻く社会・経済情勢の大きな変化を的確にとらえ、村の現状と課題に対処していきながら、より暮らしやすい田野畑村の実現を目指し、基本目標を次のように設定します。

人と自然が織りなす 心豊かな協働の村 たのはた

この基本目標は、自然や景観が適正に保全されている環境の中で、教育や生涯学習、産業やコミュニティなど地域社会を担う人材の育成が積極的に行われ、保健や医療、子育て支援、高齢者福祉、防災などの充実により安心して心豊かに暮らせる生活環境の向上を目指すため、住民と行政等とが役割分担のもとで協力しながら一緒になって未来の田野畑村を築いていこうとする姿を表現しています。

3 将来像

本村の現状と課題から導き出された6つの分野のむらづくりとして、目指すべき将来像を次のとおり設定します。

【環境】豊かな自然と共生し 暮らしに安らぎのある村

優れた海岸景観や多面的機能を持つ山林原野、里地里山などの豊かな自然環境を保全するとともに、生活排水の適正処理、リサイクル活動などごみの減量化と省エネルギーの推進による地球環境問題に対する意識向上、トイレ水洗化の普及など憩いと安らぎのある快適環境のむらづくりを進めます。

【生活】安全で生き生きとした生活が営まれ 笑顔あふれる村

だれもが心身ともに健康で豊かな人生を送るために、保健・医療・福祉の連携をより一層強化し、健やかに産み育てるための子育て環境の充実を図るとともに、病気の早期発見・早期治療に努め、住み慣れた地域で安心して安全に暮らすことができる笑顔あふれるむらづくりを進めます。

【学習】ふるさとに愛着を抱き 人間性豊かな人材を育てる村

1 村 1 小中学校となった利点を生かし、「子どもは地域の宝」として特性を生かした地域活動の中で社会性をはぐくむとともに、産業や福祉、地域コミュニティ、スポーツ、文化、芸能など多様な社会活動を支え、国際化と情報化が進む中でもふるさとに誇りと愛着を持った人間性豊かな人材を育成するむらづくりを進めます。

【産業】地域資源を活用した産業間連携が盛んで 働きがいのある村

村の基幹である第 1 次産業のさらなる振興と担い手の確保に努めるとともに、地域資源を活用した体験型観光と産業間連携の推進、推奨作目の増産、誘致企業での雇用の拡大と所得向上を図るなど、働きがいのあるむらづくりを進めます。

【交流】多様な交流を大切にし 心ふれあう村

日常生活を送るうえで基本となっている地域コミュニティによる社会活動と課題解決に向けた取り組みを支援するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を推進するため積極的な情報発信に努め、世代間、地域間、市町村間、都市住民などとのつながりを大切にしたい心ふれあう交流のむらづくりを進めます。

【交通】誰もがどこにも容易に移動でき 連携が深まる村

地域経済や日常生活を支えるだけでなく、救急患者の安全輸送や災害時の緊急物資輸送の基盤となる道路網の整備促進と適正な維持管理に努めるとともに、効率的で利便性が高く、安定した公共交通サービスを提供し、移動が容易で連携が深まるむらづくりを進めます。

